

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表
《安芸地域：第1四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>																								
<p>1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進</p> <p>《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》</p> <p>主産地である安芸市において、ナス産地としてのまとまりの再構築に取り組む。また、消費地から要望の高い品種である「土佐鷹」の栽培拡大を全域に推進していく。</p> <p>【JA土佐あき】</p>	<p>○部会の活性化 ・研究会ナス部会への参加者増による活動の活性化(安芸集出荷場) 参加者数:H21年度(126人)、22年度(174人)、23年度(228人)、24年度(325人)、25年度(393人) ・土佐あき新施設園芸システム勉強会の発足(H25.7) ・CO2施用など環境制御技術による増収効果が確認された(CO2施用装置導入農家13戸 H26.2現在)。</p> <p>○土佐鷹の推進 ・栽培候補農家のリストアップによる27園芸年度推進目標面積(40ha)の設定と意識統一ができた。 ・H25園芸年度土佐鷹販売実績:出荷量3,499t、販売額11.5億円(JA出荷ナスの19%)</p> <p>○安芸集出荷場のまとまりづくり ・系統率の向上(安芸市 H21年度:52% →H24年度:60%) ・新規加入者数 (H22~26園芸年度)合計27名 ・ナス出荷量の増加(単位t)</p> <table border="1" data-bbox="766 964 1155 1053"> <thead> <tr> <th>園年</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JA全体</td> <td>17,169</td> <td>17,803</td> <td>16,236</td> </tr> <tr> <td>安芸場</td> <td>3,385</td> <td>3,971</td> <td>3,841</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="766 1068 1239 1157"> <thead> <tr> <th>園年</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25(前年比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JA全体</td> <td>17,648</td> <td>16,597</td> <td>18,193 (109%)</td> </tr> <tr> <td>安芸場</td> <td>4,378</td> <td>4,402</td> <td>4,888 (111%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○JA土佐あき消費拡大連絡協議会が発足(H25.10) ◆土佐鷹の面積拡大(H26園芸年度26.9ha)</p>	園年	H20	H21	H22	JA全体	17,169	17,803	16,236	安芸場	3,385	3,971	3,841	園年	H23	H24	H25(前年比)	JA全体	17,648	16,597	18,193 (109%)	安芸場	4,378	4,402	4,888 (111%)	<p>①系統出荷率向上への取り組み ・まとまりづくりチーム会、打合せ会(ナス振興アンケート結果等の協議、4回) ・個人出荷者も参加する地区会の開催(4/22:中央・川北・北、4/25:下山・伊尾木) ・営農相談日の開催(4/17・65人、5/16・64人、6/16・75人)</p> <p>②土佐鷹の推進 ・土佐鷹普及推進協議会作業部会(次作栽培面積把握と対策、4月以降随時) ・総合1チーム会、園芸研究会(土佐鷹栽培ごよみ改訂版協議、2回)</p> <p>販売促進、出前授業等の企画や内容協議 ・JA土佐あき消費拡大連絡協議会の各支部総会及び全体総会の開催(芸西支部5/29、安芸支部5/2、中芸支部6/3、芸東支部、協議会総会6/4) ・販促活動・出前授業等の開催支援(5回)</p>
園年	H20	H21	H22																							
JA全体	17,169	17,803	16,236																							
安芸場	3,385	3,971	3,841																							
園年	H23	H24	H25(前年比)																							
JA全体	17,648	16,597	18,193 (109%)																							
安芸場	4,378	4,402	4,888 (111%)																							
<p>2 ユズを中心とした中山間振興</p> <p>《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下を防止するとともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組む、ユズ販売額の向上を図る。</p> <p>①新植改植の推進【JA土佐あき】 ・青果の生産拡大と品質向上 ・計画的販売の強化</p> <p>②将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり【JA土佐あき、JA馬路村】</p> <p>③ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓【JA土佐あき、JA馬路村】</p>	<p>(JA土佐あき) ○新植、改植の推進への取組み(H21~23)、県選抜系統を活用した母樹園が設置された。 ○果汁の販売対策として計画的に施設整備を進め(北川村:H21:搾汁施設、H24:果汁殺菌設備)、JA内に販売対策チームも設立した(H24)。 ○EU向けに青果輸出に取り組み始めた(H25:3t)。 ○北川村ゆず振興協議会で意向調査をもとに作業受託組織設立と農地流動化を検討することとなった。 ○北川工場はHACCP認証済 ◆隔年結果及び品質低下対策 ◆母樹園を活用した優良系統の普及 ◆ユズ銀行(作業受託組織H23末解散)に代わる新たな労働補完体制の検討</p> <p>(JA馬路村) ○ゆず茶(H21)及び化粧品(H22)の加工施設を導入した。 ○加工品の販売実績が徐々にではあるが増加している。 ○販売拡大に向けて新商品が開発された(H24:シャーベット2種、ポン酢1種、H25:ポン酢1種、化粧品3品) ◆(株)ユズ組合による作業請負等の継続及び新たな仕組みの検討</p>	<p>①新植・改植の推進(JA土佐あき) ・栽培講習、改植事業等の勉強会(11回)</p> <p>②将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり ・北川村ゆず振興協議会等での検討(6回)</p> <p>③ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 ・加工原料の品質ワンランクアップ(勉強会等の開催:10回) ・販路拡大に向けた活動の継続</p>																								

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<p>①系統出荷率向上への取り組み ・アンケート結果の再集約と活用方法、また、営農アドバイザー制度の設置に向けた合意形成が図られた。 ・個人出荷者へも情報提供ができた(計33人) ・CO2施用等新技術等の情報提供ができた(計204人)。</p> <p>②土佐鷹の推進 ・栽培面積見込みは再推進の結果、26.5ha(前年比-0.36ha)となった。 ・土佐鷹栽培ごよみ改訂版の作成ができた。</p> <p>販売促進、出前授業等の企画や内容協議 ・各支部及び協議会全体の年間事業計画が確認された。 ・収穫体験者へ環境保全型農業の取り組みやナスの「おいしさ」への理解促進が図られた。(収穫体験240人)</p>		<p>【指標】 安芸市の系統出荷率(H21:52%) 土佐鷹の作付面積(H23:29ha)</p> <p>【目標(H27)】 安芸市の系統出荷率 60% 土佐鷹の作付面積 80ha</p> <p>【H26到達点】 安芸市の系統出荷率 60% 土佐鷹の作付面積 40ha</p>
<p>①新植・改植の推進(JA土佐あき) ・果実の品質アップに向け、関係機関が連携して指導を実施しており、生産者も適期防除等に取り組んでいる。</p> <p>②将来にわたってユズ園を維持管理する仕組みづくり ・北川村内の1集落を対象に、園地流動化に向けた園地調査を7月に実施することとなった。</p> <p>③ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓 ・加工原料の品質ワンランクアップに向けて、関係機関が連携して指導を実施しており、生産者も適期防除等に取り組んでいる。 ・25年産果汁まで、代金の精算が行われている(JA土佐あき)。 ・新商品の開発および既存商品の改良が検討されている(JA馬路村)。</p>		<p>【指標】 (JA土佐あき) ・青果出荷受入量(H22:297t H23:370t) ・加工仕向け量(H22:4,250t) ・加工用果皮出来高量 安芸(H23:631t) 北川(H23:31t)</p> <p>(北川村、馬路村) ・作業受託新組織:各1</p> <p>(JA馬路村) ・加工品販売額 ユズ茶(H21:80百万円) 化粧品(H21:17百万円) ポン酢他ユズ加工品(H21:2,000百万円)</p> <p>【目標(H27)】 ・青果出荷受入量 400t ・加工仕向け量 4,670t ・加工用果皮の出来高量 安芸 1,000t 北川 80t ・組織設立に向けた方向性の決定 ・加工品販売額 ユズ茶 160百万円 化粧品 52百万円 ポン酢他ユズ加工品 2,070百万円</p> <p>【H26到達点】 ・青果出荷受入量 400t ・加工仕向け量 4,670t ・加工用果皮の出来高量 安芸 1,000t 北川 80t ・組織設立に向けた方向性の決定 ・加工品販売額 ユズ茶 160百万円 化粧品 52百万円 ポン酢他ユズ加工品 2,070百万円</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>3 ポンカンを活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《東洋町》</p> <p>東洋町の特産品であるポンカンを活用した商品開発と既存商品を含めての販路開拓を行う。</p> <p>【甲浦の果樹仲間】</p>	<p>○ポンカンを活用した商品開発(ポンカンドリンク(ビン、アルミパウチ(無糖))、ポンカンドレッシング)</p> <p>○H25販売数2,454本(ドリンク2,122本、ドレッシング332本)</p> <p>○ポンカンドリンクのチラシ作成</p> <p>○平成24年度には県外(関西)で5社のセールス活動を行い、新規取引が成立(大阪の業務用酒販 1社)するなど、年間数件の販路を拡大。</p> <p>◆販売戦略の策定</p> <p>◆販路拡大</p> <p>◆知名度の向上</p> <p>◆脆弱な営業体制</p> <p>◆商品の生産体制</p> <p>◆新商品開発</p>	<p>・高知県農林水産物加工商品開発支援アドバイザー派遣</p>
<p>4 「安田(あんた)の白い夢」の販路の拡大と新商品の開発</p> <p>《安田町》</p> <p>マンゴー大福「安田の白い夢」を中心に、大都市圏のバイヤーに対して具体的な提案を行っていく。また、町内で生産される農産物(マンゴー、イチジク、アスパラ等)を使用した新たな商品を企画開発し、県外を中心に販路開拓を行って、雇用の確保と生産者の所得の向上を図る。</p> <p>【安田町・生産者】</p>	<p>○「安田(あんた)と夢ファクトリー『キララ』」プレオープン(H24.4.25) 指定管理者:デトワール スタッフ9名雇用(うち7名地元採用)</p> <p>○正式オープン(H24.6.3) マンゴー大福、地元産牛乳のシュークリーム、文旦やブルーベリーのタルトほか20種類の洋菓子を製造・販売</p> <p>○まるごと高知テストマーケティング(H24.9.29～年末まで)</p> <p>○柚子味噌、トマトを使用した試作品を作製</p> <p>○テストマーケティングにおけるアンケートを集計</p> <p>○高知龍馬空港の直営売店での販売開始(H24.2.23～) 2/23は到着出口にて無料配布(約700個)</p> <p>○ニッポン全国物産おやつランキング5位入賞(H25.11.21)</p> <p>◆導入した製造機械での本格生産に向けた大口の販路開拓</p> <p>◆原材料の安定確保に向けた仕組みづくり</p>	
<p>5 エディブルフラワーを活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《芸西村》</p> <p>食べられる花「エディブルフラワー」の認知度アップを図るとともに、生食用エディブルフラワーの販路開拓と新たな加工品等の開発による販売促進や経営体制の構築を支援することにより、生産者の所得の向上を目指す。</p> <p>【第2香南くろしお園】</p>	<p>○H23年度 栽培ハウスの増棟(現在ハウス2棟で生産 540㎡) H24、25年度 生花 20店舗に納品</p> <p>○H23年度「弥太郎商人塾」に指導員が参加し、加工品「お花ソルト」をつくる。 H24年度 20店舗に納品・H25.3月～伊勢丹で販売 H25年度 10店舗</p> <p>○H23年度 安芸地域資源活用共有会議でエディブル料理・スイーツの試食、提案</p> <p>○H24年度芸西村地域AP産業推進連絡会議開催(5回)</p> <p>◆エディブルフラワーの認知度アップ</p> <p>◆生花、加工品の販路拡大</p> <p>◆営業活動が指導員一人のため営業力、広報不足</p> <p>◆加工場等施設の機能強化</p>	<p>・芸西村地域AP等協議(2回)</p>
<p>6 白下糖の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《芸西村》</p> <p>伝統ある芸西村の白下糖づくりを伝承し、白下糖の生産拡大と新たな加工品を開発・販売することにより、白下糖のブランド化(認知度アップ)と地域生産者の所得の向上を目指す。</p> <p>【芸西村製糖組合、芸西村、生産者グループ】</p>	<p>○サトウキビ収穫量:H23年度 25t(前年比20%アップ) H24年度38t H25年度39t</p> <p>○先進地視察:H23年度(黒潮町:黒糖新製造ライン等) H24年度(香川県:脱葉機視察)</p> <p>○H25年度 脱葉機導入</p> <p>○安芸地域資源活用共有会議で白下糖を使用した料理の試食(H23年度)</p> <p>○芸西村地域AP産業推進連絡会議開催(5回)(H24年度)</p> <p>○芸西白下糖の成分分析の実施(H23年度)</p> <p>◆製糖組合員の高齢化に伴い伝統技術の継承者(後継者)の育成</p> <p>◆白下糖を活用した新商品・加工品の開発</p> <p>◆サトウキビ作付面積の拡大</p> <p>◆製造施設の機能強化(体験観光に向けて)</p>	<p>・芸西村地域AP等協議(2回)</p> <p>・関係者協議(3回)</p> <p>・高知県観光拠点等整備事業費補助金(芸西村伝承館改修)交付決定</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 商品アイテム数 (H22:2アイテム) 既存商品の販売数(換算本数) (H22:1,807本) 【目標(H27)】 4アイテム 5,000本 【H26到達点】 4アイテム 3,200本
		【指標】 売上高 (H23:施設整備) (H24:生産開始) 【目標(H27)】 100百万円 【H26到達点】 25百万円
		【指標】 サトウキビ収穫量 (H22 20t) 【目標(H27)】 40t 【H26到達点】 39t

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>7 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化</p> <p>《室戸市、東洋町》</p> <p>土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図る。</p> <p>【室戸市木炭振興会、土佐備長炭生産組合】</p>	<p>○産振補助金により研修窯(8t窯3基)を設置(H21・H22)(振興会)。</p> <p>○産振補助金により共同利用窯(15t窯7基)を設置(H21・H22・H25)(生産組合)。</p> <p>○原木の共同購入、製品の共同出荷体制の確立(生産組合)。</p> <p>◆2事業体とも研修生の受け入れを行い、後継者の育成に努めているが、研修修了後に独立する際に必要な用地や資金の確保が困難。</p>	
<p>8 木質バイオマス活用の促進</p> <p>《安芸市、芸西村》</p> <p>林地残材等を熱エネルギーとして利用していく。</p> <p>【JA土佐あき、(有)安岡重機、高知バイオマスファーム、高知東部森林組合】</p>	<p>○木質ペレット製造工場の稼働(H22.11～、(有)安岡重機)</p> <p>○園芸用木質ペレットボイラーの設置(H21～H25 102基)</p> <p>◆木質ペレットボイラーの導入台数は目標を達成した。しかし、木質エネルギーの地産地消を目指すうえでは、地域内のペレット需要量に対して地域内の供給量が不足しており、木質ペレットの需要と供給のバランスが取れていない。</p> <p>◆木質ペレットの原料原木の安定調達</p> <p>◆木質ペレットの供給価格</p> <p>◆燃焼灰の処理</p>	<p>・ペレットボイラー設置に係る補助事業の導入(安芸市13台・芸西村9台)</p>
<p>9 林業加工品の販売の促進</p> <p>《馬路村》</p> <p>木材加工品の販売を促進し、事業者の雇用の確保と経営安定を図る。</p> <p>【エコアス馬路村、馬路村森林組合】</p>	<p>○モナッカ新バッグの商品化(H21)</p> <p>○産業振興推進総合支援事業による新商品の開発、試作(H21～22)</p> <p>○国内外の展示会への出展</p> <p>○骨壺、子供用ベッドを新商品として開発(H22～)</p> <p>○新商品Kutu-beraの開発(H25)</p> <p>◆営業部門の活動の強化</p> <p>◆森、木、エコ、田舎のストーリー性を含めた商品紹介の継続</p> <p>◆展示会やHPでのアンケートにより収集した顧客意見の活用と商品力アップ</p> <p>◆環境先進企業(協働の森参加企業等)への社用バッグ、ギフト用品等の提案</p> <p>◆新商品の開発、商品のPR、販売戦略の見直し</p> <p>◆ヤナセスギを前面に出したブランド販売戦略</p> <p>◆木製品の出荷額及び雇用者数の現状維持</p>	<p>・インテリア・ライフスタイル(6月)に出展(エコアス)</p>
<p>10 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大</p> <p>《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》</p> <p>キンメダイや定置漁獲物など地域の主要魚種について鮮魚販売、加工品販売の強化を図る。</p> <p>【芸東水産業改良普及協議会、(有)タカシン水産、高知県漁協】</p>	<p>○フェアや商談会等でのPRにより高知県産キンメダイの認知度が一定向上</p> <p>○キンメダイの冷凍フィレが業務筋等から高い評価を受けるとともに、地域の観光メニューであるキンメ井用の材料として定着</p> <p>○(有)タカシン水産の水産加工施設(10名を雇用)は、運営が軌道に乗り、生産量、取引先とともに順調に拡大</p> <p>◆関西圏を中心としたキンメダイの効果的なPR活動の展開と加工品の販路拡大</p> <p>◆高鮮度等を売りにした定置漁獲物など地域の主要魚種の販路拡大</p> <p>◆新たな魚種を使った加工商品の開発</p>	<p>・大阪の量販店でキンメダイの宣伝販売を実施(4回:のべ26店舗)</p> <p>・定置網における高鮮度処理魚の生産販売を試行(13回)</p> <p>・定置網の朝どれ鮮魚のPR販売を実施(1回)</p> <p>・近海マグロはえ縄漁船の地元水揚げを働きかけ</p> <p>・ハダカイワシ(低利用魚)のフライ商品を試作</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		<p>【指標】 新規就労者 協同寮設置 生産量増産 新規商品開発 原木配給施設</p> <p>【目標(H27)】 新規就労者 5名 共同寮設置 6基 生産量増産 30t/年/基 新規商品開発 1商品 原木配給施設 1箇所</p> <p>【H26到達点】 新規就労者 5名 共同寮設置 6基 新規商品開発 1商品</p>
		<p>【指標】 ペレット生産量能力 (H23:1,000t/年) 木質資源利用ボイラー設置台数 (H23:67基)</p> <p>【目標(H27)】 1,500t/年 100基</p> <p>【H26到達点】 1,000t/年 122基</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・ライフスタイル: 商談10件 	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・ライフスタイル: 成約1件 	<p>【指標】 木製品出荷額 (H22:233百万円) 雇用者数 (H22:59人)</p> <p>【目標(H27)】 233百万円 59人</p> <p>【H26到達点】 233百万円 59人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大阪の量販店と県漁協とでキンメダイの定常的取引が開始 ・定置網漁獲物の高鮮度処理が現場に一定定着 ・近海マグロはえ縄漁船が地元へ水揚げ 		<p>【指標】 (キンメダイ)平均単価 H20～22平均:1,146円/kg (大敷漁獲物)水揚金額 H22～24平均:13.3億円 (加工品販売金額) H22:4,700万円</p> <p>【目標(H27)】 1,200円/kg 15億円 12,000万円</p> <p>【H26到達点】 1,200円/kg 14億円 9,000万円</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>11 加工体制の強化等によるシラスの魚価等の向上</p> <p>《安芸市》</p> <p>加工処理能力の向上等によってシラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。</p> <p>【民間企業、安芸漁協、安芸おじゃ娘】</p>	<p>○安芸地域が不漁であっても他地域から原魚確保することにより、シラス加工施設を年間を通じて稼働させるメドが立ちつつある(H25)</p> <p>○シラス加工施設完成(H24)</p> <p>○地元からの雇用創出(H24)</p> <p>○企業、漁協、漁業者による加工処理能力向上に向けた協議(H23)</p> <p>・漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を実施し、漁業関係者はシラス加工処理能力の向上による浜値上昇を希望している。</p> <p>◆現状の加工処理能力では盛漁期に値崩れを起こしやすく、既存加工業者による新たな設備投資、新たな加工業者の参入等が必要</p> <p>○シラス佃煮等の商品開発(H21)</p> <p>・各種イベントでのPRや直販所での販売を通じて商品の認知度が高まってきている。</p> <p>◆衛生管理・製造体制の強化、収益性の向上、販路拡大</p>	<p>・安芸水産との協議(2回)</p> <p>・他地域シラス漁業関係者との協議(2回)</p> <p>・安芸おじゃ娘との協議(2回)</p>
<p>12 海洋深層水の利用拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>海洋深層水の水産への利用について検討を行なう。</p> <p>室戸海洋深層水アクア・ファームにおける海洋深層水給水量の拡大を図る。</p> <p>室戸ジオパーク海洋深層水サイトとして、アクア・ファームの受け入れ体制を強化し、観光客等へのPRを行う。</p> <p>【室戸市、深層水利用企業】</p>	<p>○スジアオノリ養殖施設は、養殖技術の定着や安定した販路の確保により、収支が黒字化し大幅な経営改善が図られた。</p> <p>◆安定した事業運営の継続</p> <p>○これまでの各種取り組みにより、個人及び企業に対して、海洋深層水の利活用が図れた。また、多くの観光客等にも海洋深層水を知ってもらうことができた。</p> <p>○室戸ジオパークサイトと連携した説明・PRができる体制づくりが図られた。</p> <p>◆今後とも海洋深層水の供給等の維持・向上に努めていくが、設備等の維持・更新への対策が課題となっている。</p>	<p>・スジアオノリ養殖施設の円滑な運営に向けた支援</p> <p>・海洋深層水の給水者(一般家庭内での利用)拡大のため、室戸市ホームページにより、給水案内等の周知を図る。</p>
<p>13 安芸市の地域食材を活用した商品づくりの推進</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸の安全・安心な地域食材を活用し、新たな加工品の開発と既存商品の磨き上げを行うことで、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図るとともに、生産者の所得の向上を目指す</p> <p>【安芸市、生産団体・グループ、民間事業者・加工業者、安芸市観光協会、「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会、安芸「釜あげちりめん丼」楽会、安芸市商工会女性部、JA土佐あき婦人部、入河内大根のこそう会】</p>	<p>○土佐龍馬であい博でのころごし社中開催(H22入場者113千人)</p> <p>○安芸観光情報センターの設置(H23.3)</p> <p>○ボランティアガイドの力量アップや観光に係る人材が育成されてきた。地域食材(ナス、シラス)を活かした食の提供の動きにつながってきている(H25 新レシピ「安芸まるごと丼」(ナス、土佐ジロー、シラス活用)の開発)</p> <p>○JA土佐あき婦人部「商人塾」受講</p> <p>なすまんの生産増(人材育成)、販路拡大に向けた動きにつながっている。</p> <p>◆地域食材を活用した加工品の開発と販売</p> <p>◆食の提供の強化</p>	<p>・安芸「釜あげちりめん丼」楽会意見交換会(1回)</p> <p>・安芸「釜あげちりめん丼」楽会検討会(1回)</p> <p>・安芸「釜あげちりめん丼」楽会総会(1回)</p> <p>・入河内大根のこそう会総会(1回)</p> <p>・じゃこサミット実行委員会(2回)</p>
<p>14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進</p> <p>《奈半利町》</p> <p>地域資源を活用した加工品をつくる施設を整備することにより、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す</p> <p>【奈半利町・奈半利なんでも市加工グループ・いちじく加工品グループ・加領郷漁協女性部】</p>		<p>・加工施設整備に関して各加工グループ等との協議:計11回</p> <p>・加工施設整備のための先進地視察:1回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・新たに香川県庵治漁協から原魚が確保できることが決定。		【指標】 水揚げ金額 (H23.1～12: 189,231千円) (H24: 245,000千円) (H25: 117,000千円) 【目標(H27)】 水揚げ金額 201,000千円 【H26到達点】 水揚げ金額 159,000千円 シラス加工施設売上金額 160,000千円
・給水地域拡大による市外の給水許可者 2名	・わずかではあるが、給水量の増加につながった。	【指標】 アクアファームの海洋深層水使用料 H22: 27,000千円 【目標(H27)】 35,000千円 【H26到達点】 30,000千円
・安芸まるごと并提供店舗5店舗(安芸市内)		
		【指標】 H25売上額 農産加工品: 500万円 水産加工品: 150万円 【目標(H27)】 農産加工品: 750万円 水産加工品: 200万円 【H26到達点】 加工施設の整備

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>15 田野町の地域資源を活用した新商品の開発と販路の拡大</p> <p>《田野町》</p> <p>田野町の地域資源を活用した商品を開発し、販路を拡大していくことにより、雇用の確保と地域の経済の活性化を目指す。</p> <p>【四国部品(株)中芸事業所、民間企業】</p>	<p>○酒粕スイーツ「蔵乃風」「蔵人の菓」等の開発、販売開始(H22~23)、塩シャベット「塩姫」等、生姜のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始(H24~25)</p> <p>○新商品の試作・開発や、商談会への参加等により販路開拓を進めている。</p> <p>○酒粕ドレッシング試作・改良、パッケージデザイン作成(H22~23※H24.12ダイイチ・ダルマ食品の事業廃止により、事業継承者なし)</p> <p>○天日塩アイスの一般向け商品の開発(H25)</p> <p>◆事業として成立させるための販売場所及び体制の確立</p> <p>◆製造コストの低減や製造工程の機械化の検討による収益性の向上</p> <p>◆地域食材の活用促進、関係者間の連携強化、商品ブランド化</p>	<p>・県内外の高知県物産展、イベント等への出展(1回)</p> <p>・産業振興計画シンポジウムでの商品展示(3回)</p> <p>・新商品の開発・販売(2品目)</p>
<p>16 完全天日塩の生産の拡大と観光への活用</p> <p>《田野町》</p> <p>製塩ハウス施設等の整備と併せて新たな就業者の確保・育成を行うとともに、塩づくり体験を通して、完全天日塩の産業化と交流人口の拡大を図る。</p> <p>【田野町、民間事業者】</p>	<p>○製塩体験施設の整備(H24)、オープン(H25)</p> <p>○県観光拠点等整備事業費補助金を活用し施設を整備したことにより、体験受入による交流人口の拡大に取り組む環境ができた。</p> <p>○地域おこし協力隊の導入(H25~)</p> <p>○H25.4月から、産業振興、移住促進等事業とあわせて体験施設運営や塩づくりに関わる地域おこし協力隊を4名採用。H26からは2名増員予定となり、体験製塩施設の企画・運営等に関わる人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>◆集客できる体験メニューの充実</p> <p>◆体験施設の実施体制の確立</p> <p>◆新規就業者の確保に向けた人材育成</p> <p>◆新規就業者の独立に向けた環境整備</p>	<p>・地域おこし協力隊の2名増員(5月~)</p>
<p>17 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化</p> <p>《室戸市》</p> <p>地域食材を加えたジェラートの製造や地域産品の加工を行う施設等を整備して、新商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、生産者の所得向上を図る。</p> <p>【室戸市】</p>	<p>○平成20年度に楽市の増改築を、平成22年度には駐車場の拡張を行い、平成24年は約25万7千人(キラメッセ全体で約32万8千人)の来場者があり、売上は2億5千万円(全体約4億円超え)を超えた。</p> <p>○県外の店舗・アンテナショップ等への野菜等の販売により、さらに販路が広がった。</p> <p>○基本構想・基本計画を策定(H25)し、道の駅キラメッセ室戸を一体的に機能強化していく方向性が定まった。</p> <p>◆楽市で扱う野菜・果物等の生鮮品の消費をさらに拡大し、生産者の意欲・所得向上を図るために加工品をつくる施設が必要である。</p> <p>◆加工場を建設すると、既存の駐車場が狭くなる。駐車場スペースは現在でも十分とはいえないため、現況地に隣接する保安林を解除して、新たな駐車場の造成が必要となる。</p>	
<p>18 海の駅を拠点とした地域振興</p> <p>《東洋町》</p> <p>高知県の東の玄関口である東洋町に、観光拠点施設や地元特産品の販売・加工施設、飲食施設等の機能を付加した「海の駅」を整備することにより地域の活性化を図る。</p> <p>【東洋町】</p>	<p>○情報交換会の実施(H21~23)</p> <p>○順調に売り上げを伸ばしており、平成22年度には「海の駅」の施設を増築。</p> <p>○平成24年7月の焼失により再建し平成26年1月12日再開。</p> <p>◆運営体制の強化</p> <p>◆地域産品を活用した加工品の確保</p> <p>◆観光拠点機能の付加</p>	<p>・実行支援チーム会開催(1回)</p>
<p>19 道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)と施設整備等</p> <p>《田野町》</p> <p>地域の特産品や観光情報の発信機能を強化し、田野駅屋の集客力を最大限に有効活用する。併せて地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。</p> <p>【田野町、道の駅指定管理者、加工施設指定管理者、生産者組織】</p>	<p>○加工品7品目開発(H21)、3品目試作(H22)</p> <p>○田野駅屋拡張(74㎡増)(H23.3)</p> <p>○情報発信コーナーが整備されたことで、中芸地域以東の観光情報発信の拠点としての期待が高まっている。</p> <p>○イベントの受入れや参加を通じて、情報発信や田野町のPRに取り組んでいる。</p> <p>◆加工品の開発に関しては、10品目の開発がされてきたが、販売が継続されているものは少ない。</p> <p>◆情報発信機能の更なる強化</p> <p>◆地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化</p>	<p>・GW臨時観光案内業務等の実施(3日間)</p> <p>・県内外イベント等への出展(1回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 酒粕商品販売額 (H23 4,200千円) 【目標(H27)】 42,000千円 【H26到達点】 29,160千円
<ul style="list-style-type: none"> ・見学等への参加者数(203人) ・体験受入回数(9回) 		【指標】 体験受入回数(H23 50回) 生産量(H23 2t) 【目標(H27)】 体験受入回数:100回 生産量:6t 【H26到達点】 生産量:3t
		【指標】 キラメッセ楽市への来場者数 (H23:244,968人) 【目標(H27)】 258,000人 【H26到達点】 整備の完了
<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年1月～5月の来場者数 63,764人 (参考) 平成23年度来場者 156,063人	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年1月～5月の売上 58,398千円 (参考) 平成23年度売上 127,037千円	【指標】 海の駅来場者数 (H22:153,446人) 【目標(H27)】 海の駅来場者数 180,000人 【H26到達点】 海の駅来場者数 170,000人
<ul style="list-style-type: none"> ・臨時観光案内所への来客数(673人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客等のニーズを把握することができた。 ・県内外の観光客に対し、田野駅屋の認知度アップに繋げることができた。 	

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>20 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化</p> <p>《芸西村》</p> <p>地場産品直販所「かっぱ市」のリニューアルオープンに伴い、花卉類・鮮魚類の販売を拡充させ、他の直販所と差別化することで売上の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図る。村内で生産される農産物等(ピーマン、黒砂糖等)を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。</p> <p>【有限会社かっぱ市、芸西村、生産者グループ】</p>	<p>○H23年10月リニューアルオープン(産振補助金の投入) 営業時間の延長</p> <p>○かっぱ市職員が農業創造セミナー等の研修会に積極的に参加し、具体的な活動計画を作成するなど、サービス向上・売上増加に向けた意識の高揚が図られた。(H23)</p> <p>○産振アドバイザーの助言による試作商品の販売(H23)</p> <p>○産振アドバイザーの指導・助言による既存加工品の磨き上げ等(H25)</p> <p>○H24.10月～店内調理場での弁当等加工品販売開始</p> <p>◆花卉類出展量の確保、新商品の開発及び新商品の原材料確保(サトウキビ等)</p> <p>◆商品集荷システムの構築</p> <p>◆テイクアウト商品の充実</p> <p>◆加工場・飲食施設等の充実</p>	<p>・芸西村地域AP等協議(2回)</p>
<p>21 安芸地域の観光振興の推進～東部地域博覧会の開催～</p> <p>《安芸地域全域》</p> <p>安芸地域における市町村が連携して地域博覧会を開催することを契機に、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて、地域博覧会により蓄積された広域観光のノウハウを活かすために、広域観光のプロモーション機能や地域コーディネート機能を持つ組織をつくることにより、地域博覧会後における広域観光の推進体制を整備する。</p> <p>【安芸広域市町村圏事務組合、市町村、観光協会等、地域団体、民間事業者、高知県東部地域博覧会推進協議会】</p>	<p>○観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21～22)</p> <p>○DVDの作成 500枚(H21)</p> <p>○ランドオペレーター1名雇用(H22.6～)</p> <p>素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつながっている。</p> <p>○エージェントセールス(H25.1.10～11中四国、H25.2.5～6関西)</p> <p>○高知県東部地域博覧会基本計画の策定(H25)</p> <p>○教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25)</p> <p>◆広域的な連携強化</p> <p>◆戦略的な商品造成</p> <p>◆教育旅行の推進に向けた民泊の拡大及び体験メニューの充実と人材育成</p> <p>◆地域博覧会の開催(平成27年度)に向けた準備</p> <p>◆広域観光組織の立上げ</p>	<p>・東部博イベント審査会 3回</p> <p>・東部博企画運営部会 3回</p> <p>・東部博コアメンバー会 5回</p> <p>・高知県広域観光推進事業費補助金の交付決定</p> <p>・広域観光アドバイザーによる研修 7回</p>
<p>22 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興</p> <p>《室戸市》</p> <p>世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や商品開発に取り組み交流人口の拡大を図っていく。</p> <p>【室戸市、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市観光協会】</p>	<p>○H23.9.18に世界ジオパーク認証を受けた。</p> <p>○看板や遊歩道、駐車場などの環境整備、ガイドやジオパークマスターの養成研修(H21～H23)の実施等により、室戸ジオサイトにおける受入体制の整備が図れた。</p> <p>○ジオガイド養成講座の実施により、ガイド登録者が増加した(H25.4.1時点48人)。</p> <p>○モニターツアーの実施(H24)により、ツアー参加者のニーズを把握できた。</p> <p>○日本ジオパーク全国大会の開催(H24)により約2,200人が本大会に参加し、それに伴う宿泊・食事利用等による経済効果があった。また、地域住民との連携が図られ、室戸ジオパークの理解促進につながった。</p> <p>○拠点施設整備の基本計画ワークショップの開催(H24)により、地域住民が積極的に関わった計画の策定ができた。</p> <p>○拠点施設建築主体工事の基本設計、実施設計を完了した(H25)。</p> <p>○拠点施設外構工事及び展示整備の基本設計を完了した(H25)。</p> <p>◆受入体制の強化</p> <p>◆拠点施設整備</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業活用 24,880千円</p> <p>・高知県観光拠点等整備事業費補助金活用</p> <p>拠点施設外構工事実施設計・監理業務委託事業 7,999千円(事業費11,999千円)</p> <p>拠点施設展示整備実施設計・監理業務委託事業 9,086千円(事業費13,630千円)</p>
<p>23 イルカのふれあい体験による交流人口の拡大</p> <p>《室戸市》</p> <p>室戸ドルフィンセンターの待合施設やシャワー施設を備えた施設により、利用者満足度の向上、物販スペース等の拡大により事業売上げの向上を図る。また、陸上プール設置及びイルカ飼育頭数を増やすことによる体験者の増加を図る。</p> <p>【NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト、室戸市】</p>	<p>○広報の強化、施設の充実等により、高額プログラムであるドルフィンスイムの参加者が大幅に増加、それに伴い、事業収入が増加し運営の安定の土台が築けた。</p> <p>また、平成24年度に新たな施設及び陸上プールを整備したことにより、より安心・安全にふれあい体験が利用できるようになり、物販・休憩スペースも確保され、来場者の満足度の向上に向けた準備が整った。</p> <p>さらに、平成25年度には陸上プールに接続した補助プール(直径5m、水深1.5m)を整備し幼児や高齢者も安心して利用できる体験プログラムの開発が可能となった。</p> <p>◆ジオパーク等地域の観光素材を組み合わせた情報発信</p> <p>◆より多くの集客を図るための広報・営業の検討</p> <p>◆周辺施設等との連携による集客</p>	<p>・「海の駅とろむ クーポンiRUCA」2,500部作成。</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 売上額 (H22 87,000千円) 【目標(H27)】 106,000千円 【H26到達点】 125,000千円
		【指標】 圏内主要施設訪問者数 (H22:120,394人) 圏内宿泊者数 (H22:137,439人) 【目標(H27)】 圏内主要施設訪問者数 140,000人 圏内宿泊者数 150,000人 【H26到達点】 圏内主要施設訪問者数 140,000人 圏内宿泊者数 150,000人
・運営体制の整備 専門職員3名 インフォメーションセンター職員2名		【指標】 ジオパークガイド登録者数 (H22:20人) ジオパーク関係施設来訪者 (H22:53,473人) ※ドルフィンセンターを含む 【目標(H27)】 登録者数 40人 来訪者数 70,000人 【H26到達点】 登録者数 60人 来訪者数 70,000人
・「クーポンiRUCA」利用回数:752(6/30現在)	・「クーポンiRUCA」アンケート回収枚数:216グループ (6/30現在)	【指標】 室戸ドルフィンセンター来場者数 H22:22,181人 【目標(H27)】 室戸ドルフィンセンター来場者数 27,000人 【H26到達点】 27,000人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>24 岩崎弥太郎生家を核とした観光振興</p> <p>《安芸市》</p> <p>岩崎弥太郎生家エリアや土居廓中エリアを観光拠点として磨き上げを実施し、交流人口の拡大による安芸市の経済の活性化を図る</p> <p>【安芸市、安芸市観光協会、「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会、安芸市観光ボランティアガイドの会、民間事業者】</p>	<p>○土佐龍馬であい博でのころざし社中開催(H22入場者113千人)</p> <p>○ボランティアガイドの育成(40名)(H21～H25)</p> <p>力量アップや観光に係る人材が育成されてきた</p> <p>○H23.3月 安芸観光情報センターの設置</p> <p>◆岩崎弥太郎を活かした取組の強化</p>	<p>・「商い甲子園」実行委員会(3回)</p> <p>・安芸市ボランティアガイドの会総会(1回)</p> <p>・「はばたけ弥太郎」推進委員会総会(1回)</p>
<p>25 東洋町における体験観光の推進</p> <p>《東洋町》</p> <p>サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受け入れ施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行う。</p> <p>【東洋町、地元マリンスポーツ関係事業者、観光振興協会】</p>	<p>○H25東洋町観光振興協会の観光振興補助事業を活用し地元ダイビングスクールが新たな体験観光プログラムを開発した。</p> <p>○H25東洋町観光ガイドブック「東洋町探訪」作成</p> <p>◆地域資源を生かした体験観光プログラムの開発</p> <p>◆地元事業者(サーフショップ等)との協調</p> <p>◆受け入れ施設の整備</p>	<p>・高知県観光拠点整備事業費補助金(1,674千円、白浜キャンプ場炊事場整備(第2期工事))</p>
<p>26 藤村製糸を活用した観光振興</p> <p>《奈半利町》</p> <p>藤村製糸を活かした観光振興をなはり浦の会とともに交流人口の拡大を図る。</p> <p>【藤村製糸・なはり浦の会・奈半利町・なはり観光文化協会】</p>		<p>・記念館建設に関して藤村製糸株式会社との協議:3回</p> <p>・「なはり浦の会」の活動拠点の確認及び活動支援:4回</p> <p>・観光拠点等整備事業補助金の調整:2回</p>
<p>27 中芸地区における広域観光の推進</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>官民が協働して、地域内にある観光資源を磨きあげ魅力ある滞在型・体験型旅行商品づくりを行いながら、観光客の増加を図り、地域の経済の活性化を推進する。</p> <p>【中芸広域連合、中芸観光協議会、中芸商工会、観光関連事業者等】</p>	<p>○H24.4.1中芸観光協議会設立(H24.3.29設立総会)</p> <p>○協議会の運営(H24:全体会2回、運営会議10回)</p> <p>○中芸観光ビジョンの策定(H24策定委員会:4回)</p> <p>○中芸観光スペシャルキャンペーンの開催(H24実行委員会:9回)</p> <p>○イベント等情報収集(62回)</p> <p>○ホームページの開設、イベント等での観光情報PR(1,110名)</p> <p>○旅行会社等との調整(高新観光、伊予鉄トラベル、朝日旅行、土佐電トラベル等)</p> <p>○観光プロモーション(8回)</p> <p>◆魅力ある旅行商品の造成</p> <p>◆ガイド等の受入体制の整備</p>	<p>・地域本部による事務局職員の業務支援(総括・支援員2名)</p> <p>・中芸観光協議会運営会議の開催(2回)</p> <p>・高知県東部博中芸推進委員会の開催(3回)</p> <p>・中芸地域グルメ開発検討会の開催(1回)</p> <p>・GW期間における臨時観光案内及び中芸観光キャンペーンの開催</p> <p>・東部博イベント審査会(5/13、6/11)へコアイベント提案(2件)</p>
<p>28 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p> <p>森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、その適切な保存・管理と、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。</p> <p>【奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、中芸観光協議会、中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会】</p>	<p>○案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21～23)</p> <p>○観光用ビデオの作成(H22)</p> <p>○開通100周年事業の実施(H23～H24)</p> <p>○ガイドの育成14名(H21～H22)</p> <p>○旅行会社等によるツアーの催行</p> <p>○中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主的な活動の充実(H25)</p> <p>◆100周年記念事業を契機とした更なる情報発信</p> <p>◆5カ町村共同での保存・管理・活用計画の策定</p> <p>◆東部博覧会の実施に際した観光素材としての磨き上げ</p>	<p>・地域づくり活動支援事業費補助金(600千円、安芸広域市町村圏事務組合)</p> <p>・東部博イベント審査会へコアイベント(魚梁瀬森林鉄道アート&ライブ)を提案(1件)</p>
<p>29 体験型観光と地域の加工品づくりの推進 ～大野台地は、えいところ！～</p> <p>《田野町》</p> <p>交流事業の推進による交流人口の拡大と併せて新たな加工品開発に取り組むことで、農畜産物の消費拡大や所得の向上、雇用機会の創出を図る。</p> <p>【大野倶楽部、田野町】</p>	<p>○体験イベントの受入・主催による実施や県外の学習塾の体験合宿受入(H22～23)などに取り組み、交流人口の拡大など一定の成果が見られる。</p> <p>○東部地域で初めてとなる民泊にも積極的に取り組んでおり、修学旅行生の受入れなど今後の展開に期待が持てる。</p> <p>◆事務局体制の確立、受入れ・実施体制の強化</p> <p>◆地域住民への活動理念の浸透</p> <p>◆他地域の資源と連携したメニューづくり</p> <p>◆活動を収入に繋げていく仕組みづくり</p>	<p>・交流事業の受け入れ実施(1回)</p> <p>・イベント等への出店(1回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
		【指標】 町並みガイド実績 H24:390人 【目標(H27)】 800人/年 【H26到達点】 記念館整備
<ul style="list-style-type: none"> ・GWキャンペーン参加者(計22人) ・臨時観光案内所への来客数(673人) ・中芸観光協議会提案コアイベント採択(2件) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・東部博イベント審査会でコアイベント採択 		【指標】 ツアー客数 (H22:1,171人) 【目標(H27)】 1,500人 【H26到達点】 1,300人
<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業への参加人数(67人) ・加工品の田野駅屋販売(2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の拡大 	

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<安芸地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>30 世界に2つの「モネの庭」の誘客強化による交流人口の拡大</p> <p>《北川村》</p> <p>県外での広告宣伝や、それに連動した営業活動によって、来園への新たな動機付けにつながる施設整備やイベントの実施をPRして集客力を高める。</p> <p>【北川村、(株)きたがわジャルダン】</p>	<p>○1月末の入園者数(株)きたがわジャルダンの決算期は毎年2月から翌年1月まで)</p> <p>H22.2~H23.1 53,369人 H23.2~H24.1 59,101人 H24.2~H25.1 55,288人 H25.2~H26.1 56,281人</p> <p>対H24:101.8% 対H23:95.2%</p> <p>○来園促進のため、県内及び中四国への営業訪問・PR活動の実施</p> <p>◆開園1年間で20万を超えた入園者数が、年々減少しておりここ4年は5万人台で推移。</p> <p>◆開園10年を超え、来園動機の落ち着きが見られることから誘客対策の強化が必要。</p> <p>◆営業・情報発信の不足</p>	<p>・シェフ配置</p> <p>・接客マナー研修の実施</p>
<p>31 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり</p> <p>《安芸市》</p> <p>安芸市東川地区の資源を活用した新商品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落づくりを目指す</p> <p>【東川地域おこし協議会】</p>		<p>・お茶摘み体験(1回)</p> <p>・フェイスブックでの情報発信</p>
<p>32 安田中山地区の活性化プロジェクト</p> <p>《安田町》</p> <p>地区住民主体で「中山元気プラン(仮称)」の策定を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組むとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。</p> <p>【安田町、中山を元気にする会、安田川漁協、自然薯生産組合、味工房じねん、中山合同女性部】</p>	<p>○高知大学・安田町連携事業協議会(H24)</p> <p>○「集落活動センターなかやま」の開設(H25.4月)</p> <p>○旧中山小中学校(集落活動センター)の耐震診断(H25)</p> <p>○安田ふるさと応援隊(地域おこし協力隊)1名の採用(H25)</p> <p>○集落調査員2名の採用(H25)</p> <p>○中山を元気にする会の月例化(H25)</p> <p>○なかやま山芋まつりの活性化(H25来場者前年比約1.5~2倍)</p> <p>◆集落活動センターの円滑な運営と外部人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊員による運営支援の継続 ・ふるさと応援隊員の活動を通じた地域住民の参加意識の醸成 <p>◆旧中山小中学校の改修工事の早期実施</p>	<p>・高知県集落活動センター推進事業費補助金(県費30百万円、補助率1/2)</p>
<p>33 北川村温泉を核とした中山間振興</p> <p>《北川村》</p> <p>北川村温泉の建築に併せ、地域の集落活動の拠点を整備することにより、交流人口の拡大と地元農産物の直販などの集落活動を拡大することで中山間地域の振興を図る。</p> <p>【北川村、北川村中部地区集落活動協議会、北川村観光協会】</p>	<p>○昭和49年、林業振興の拠点施設として北川村温泉を整備。</p> <p>平成19年、北川村の施設運営を指定管理(株)カゴオに移行。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H24年度来場者:宿泊者数 5,463名 入浴者数 17,731名 <p>○平成25年7月、和田・小島・平鍋地区の住民で組織する北川村中部地区集落活動協議会を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川村温泉内で直販市を試行(H25.8~、日曜開催) ・休耕田対策として、協議会員による耕作や花を植えて誘客事業に着手 <p>◆温泉施設の整備</p> <p>◆情報発信</p> <p>◆地域交流活動、集落活動の展開</p>	<p>・休耕田で地区住民、モネの庭職員の協力により約20名でひまわり畑(5~6反、種13kg)づくり。</p>
<p>34 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト</p> <p>《馬路村》</p> <p>馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。</p> <p>【馬路村、魚梁瀬地区住民団体(自治会)】</p>		<p>・地域住民による協議会(2回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
・カフェの新メニュー提供 ・接客マニュアルの作成 ・入園者数の推移 H26.2～H26.5 24,775人 対H25:74.4%		【指標】 入園者数 (H22:53,369人) 【目標(H27)】 65,000人 【H26到達点】 60,000人
・お茶摘み体験参加者50名		
・モネの庭、地元建設会社、観光協会などを巻き込んだ協議会活動の広がり。		【指標】 来場者 H24 宿泊:5,463人 入浴:17,731人 【目標(H27)】 H24年比10%増 宿泊:6,000人 入浴:19,500人 【H26到達点】 宿泊:5,500人 入浴:17,800人